

美 鍼を受けて

美

人になろう



柳澤 学

## まえがき

はじめまして、愛知県名古屋市の鍼灸院・休息治療院を営んでいる鍼灸師の柳澤学と申します。鍼灸は対応できる分野が幅広く、休息治療院では美容と癒やしの鍼灸を看板に、生活の楽しみとして使っていただけるエンターテインメント鍼灸、略してエンタメ鍼灸を確立して施術を提供させていただいています。

鍼灸と聞いて皆さんはどんなイメージを思い浮かべますか？

怖い・痛い・怪しい・高齢者が受ける医療、多くの方はそんなイメージを持っているのではないのでしょうか？

しかし、時代は変わり、鍼灸は今まで注目されていなかった分野にもスポットが当たるようになりました。その分野とは本書のテーマでもある美容です。

鍼灸で美容？ピンとこない方が多いと思います。ズバリ！美容鍼は全ての美容法の中でトップクラスの美容効果があるのです。その素晴らしい美容効果に関しては、本編でお話ししていく事にします。ここでは僕自身の鍼灸師としての経歴をお話ししていきます。

鍼灸師という仕事は、鍼灸に何かしらの大きな感銘を受けて目指す方が多く、その場合鍼灸に対して最初から信仰に近いものを持っています。

しかし、僕は大学卒業後にサラリーマンとして失敗し、その後も挫折の連続で、最後に手に

職を付けようと入ったのが鍼灸マッサージ業界でした。ですから鍼灸に対して特別な思いはなく、冷静に見ていました。鍼灸に熱い思いを持ってそれをエネルギーとしていい方向へと進んでいく人もいるのですが、僕にとつては特別な思いがなかった事が合っていたのだと思います。鍼灸に対して過大評価や先入観もなく、何ができて何ができないのかをしっかりと見極めていく事ができたのです。

鍼灸学校を卒業したのちは、どこかの鍼灸院の正社員にもなる事なく、非正規スタッフとしてホテル内鍼灸マッサージ院、接骨院、リラクゼーション店と、あらゆる鍼灸マッサージ分野で働き、経験を積んでお金をため、2年で自分の鍼灸店を持つ事ができました。

鍼灸よりもマッサージが好きだったので、最初はマッサージ中心の店として営業していましたが、間もなく美容鍼に出会すと、そこではじめて鍼灸の面白みに目覚め、マッサージよりも鍼灸、特に美容鍼を中心とした施術にシフトしていききました。

面白みを感じていた仕事ですから、どれだけ量をこなしてもコツコツとした作業も苦にはありませんでした。研究に費やしてきた時間、現場での施術経験量は、同世代では誰にも負けないと自負できます。とにかく四六時中美容と癒やしの鍼灸の事を考え続けていました。

そして今日に至るまでに、開店2年目で初の全国版の雑誌への掲載。3年目で東京恵比寿のエステ店から美容鍼の美容効果を認められ、1か月に1回の分店活動をエステ店内で1年間。そして5年目に鍼灸の初セミナーを開催。6年目に女性鍼灸師による女性専用の支店を開店。7

年目に1年で2回の全国版の雑誌への掲載、ラジオ出演、そしてこの本の執筆依頼と、鍼灸経営を良好に保ちつつ、実績も残してきました。

その中で、美容と癒やしの鍼灸を生活の楽しみとして提供するエンタメ鍼灸を確立したのです。

美容と癒やしの鍼灸を看板にしたのは、鍼灸業界の現状を懸念したのも理由のひとつです。鍼・灸・マッサージを行うには国家資格が必要です。しかし現在、資格をとっても9割の鍼灸マッサージ師が食べていけなくなり、この仕事をやめてしまっているのです。

国家試験の合格率は9割ぐらあります。国家資格に受かるという点では、鍼灸学校の教育が大切である事は間違いありません。しかし卒業後、鍼灸業に就くと9割うまくいかないというのは、学校で教えてもらっている事や鍼灸業界の常識だけでは、この業界を生き抜いてはいけないという事になります。

そして何より、鍼灸を受けてくださる世間の皆さまが、鍼灸を魅力あるものと感じていないという事だと思えます。ならばどうすればこの状況を変える事ができるのか？

それは、現在の鍼灸業界の常識にとらわれず、新たな可能性を開拓して、世間にその効果をアピールしていく事だと思います。

本書では、休息治療院のオリジナル美容鍼・美鍼（びじん）のやり方・考え方を中心に、施術前後の写真を多数掲載して、その驚くべき美容効果をわかりやすく解説してあります。この

本を読んでいただく事で、今までよくわからなかった鍼灸の使い方や鍼灸業界の事を知っていただき、鍼灸を使って生活をより豊かに楽しく過ごしていただくサポートができればと思います。また、鍼灸師で美容鍼をやっていてうまく美容鍼が提供できていない、もしくはこれから美容鍼を取り入れたいがどのように提供すればよいかわからない方には、ヒントが満載の1冊にもなっています。鍼灸師の方には、よい美容鍼を提供するためのきっかけになれば嬉しく思います。